

# 教育研究業績書

2018年05月14日

所属：健康・スポーツ科学科

資格：講師

氏名：幸野 邦男

研究分野	研究内容のキーワード
女性スポーツ健康センターと共同研究の元海外女性スポーツ組織との連携を図り、女性アスリートのコーチング法開発研究。スポーツ英語教育による国際舞台で活躍できるグローバル人材育成。日本国政府下のスポーツ庁の掲げるスポーツ立国政策の一環として、アスレチックデパートメントの構築かつ米国NCAAの日本への応用。日本経済の躍進に欠かせない女性リーダーシップ教育論、女性が活躍できるダイバーシティ社会への推進を図る。	女性スポーツ、リーダーシップ、コーチング、スポーツ英語、アスレチックデパートメント、NCAA
学位	最終学歴
修士：アラバマ大学（米国） 学士：アリゾナ大学（米国）	アラバマ大学（米国） 修士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 米国大学学生アスリートのスポーツ健康科学教育とコーチング	1995年4月1日～2016年6月3日	ヘッドコーチとして、トレーニングとコーチングのスポーツ科学健康教育。17名のオリンピック水泳選手排出。多数のナショナルチームメンバー水泳選手輩出。学生アスリートとしての学業とスポーツの両立を指導
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 米国ニューメキシコ大学のアスレチックデパートメントの行動規範教材	2014年12月15日	ニューメキシコ大学のアスレチックデパートメントにおける学生アスリートの学業競技力向上にむけての戦略委員会の一員として、行動規範教材を作成。成果として、UNM水泳部は、全米4位の学業成績（GPA）を取得
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. エリート水泳コーチ講習	2016年9月17日	和歌山県のエリート小中高生水泳選手を対象とした実技講習を実施。米国のコーチングメソッドによるテクニック、トレーニング概念を用いた実技講習を実施。また和歌山県選抜コーチ陣を対象としたテクニックとチーム構成を対象とした講義を行った。
2. びわこ成蹊スポーツ大学にて講演	2013年4月16日	アメリカ大学スポーツのシステム、NCAAシステムの講演。オリンピック選手のコーチングメソッドの講演
3. 大阪YMCA社会体育専門学校にて講演	2000年4月19日	アメリカ大学スポーツのシステム、NCAAシステムの講演。オリンピック選手のコーチングメソッドの講演
4. 大阪YMCA社会体育専門学校にて講演	1999年5月18日	アメリカ大学スポーツのシステム、NCAAシステムの講演。オリンピック選手のコーチングメソッドの講演
5. 大阪YMCA社会体育専門学校にて講演	1998年4月17日	アメリカ大学スポーツのシステム、NCAAシステムの講演。オリンピック選手のコーチングメソッドの講演
6. 大阪YMCA社会体育専門学校にて講演	1997年4月17日	アメリカ大学スポーツのシステム、NCAAシステムの講演。オリンピック選手のコーチングメソッドの講演
7. 英語によるコーチング	1994年12月24日～2016年6月3日	22年間英語によるコーチングを米国大学生に指導
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. American Swimming Coaches Association (ASCA) Level 4	2016年2月1日	
2. NAUI Nitroxダイバー	2003年10月11日	
3. PADI アドバンスオープンウォーターダイバー	2000年10月1日	
4. 日本スキー連盟 2級	1992年2月1日	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 大学コンソーシアムKANSAI理事	2018年4月1日～現在	
2. 大学スポーツ推進特別委員	2017年6月2日～現在	
3. 全国大学体育連合近畿支部運営委員	2017年5月1日～現在	
4. 大学スポーツ振興関西地区検討会幹事校委員	2016年11月1日～現在	
5. 米国水泳連盟ナショナルチーム日本サポートスタッフ	2016年10月11日～現在	
6. 順天堂大学女性スポーツ健康センター協力研究員	2016年10月1日～現在	学生女性アスリートの学業と競技レベルの向上を目指すため、タイトルIXの研究。全米体育協会（NCAA）のルール規範を熟知する上で、日本国政府下のスポーツ庁の掲

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
7. 米国大学でのコーチング、スポーツ健康科学の研究	2012年7月1日～2016年6月3日	げるスポーツ政策の一環として、産学官連携事業のスポーツ国際交流、スポーツ留学、スポーツ産業の発展、地域スポーツ活動との連携を促進し、高齢者への健康管理、若手アスリートへの夢と挑戦、スポーツイノベーションの研究を行う。米国の最先端施設や大学等を視察し、日米国際スポーツ健康学やスポーツ産業比較論を展開。全米大学体育協会（NCAA）を調査研究し、また米国大学におけるアスレチック部門の調査、大学スポーツマネジメント研究。 ニューメキシコ大学ヘッドコーチ
8. 米国大学でのコーチング、スポーツ健康科学の研究	2003年7月1日～2012年6月30日	ネバダ大学ラスベガス校アソシエイトヘッドコーチ
9. 米国大学でのコーチング、スポーツ健康科学の研究	2001年7月1日～2003年6月30日	アラバマ大学アシスタントコーチ
10. 米国大学でのコーチング、スポーツ健康科学の研究	1994年8月20日～2001年5月12日	アリゾナ大学アシスタントコーチ
11. 米国大学でのコーチング、スポーツ健康科学の研究	1994年4月1日～1994年8月19日	南カリフォルニア大学ボランティアコーチ
<b>4 その他</b>		
1. 武庫川女子大学水泳部副部長	2016年9月1日～現在	
2. 第17回アジア選手権	2014年9月1日～2014年10月4日	出場選手を1人輩出
3. 第12回パンパシフィック水泳大会	2014年8月21日～2014年8月25日	出場選手を1人輩出
4. 第90回日本水泳選手権	2014年4月10日～2014年4月13日	2位入賞選手を1人輩出
5. 大学歴代最高結果を全米山岳リーグにて獲得 - ニューメキシコ大学	2014年2月22日	MWC(全米山岳リーグ)大会ではチーム成績最高5位を果たす
6. 米国大学1部リーグ水泳部学力ランキング4位獲得 - ニューメキシコ大学	2014年1月21日～2015年12月12日	2014, 15の春学期にて、CSCAA(全米大学コーチ協会)1部リーグ学業成績ランキングで全米4位獲得(GPA: 3.61)
7. 全米水泳選手権	2013年6月25日～2013年6月29日	3位入賞選手を1人輩出
8. 全米大学1部リーグ水泳部学力ランキング20位以内 - ニューメキシコ大学	2013年～2016年6月3日	CSCAA(全米大学コーチ協会)1部リーグにてチーム学業成績を通年で全米20位以内を獲得維持(平均GPA: 3.59)
9. 58学校記録を4年間で更新 - ニューメキシコ大学	2012年7月1日～2016年6月3日	過去4年間で58種目の学校記録を更新
10. 男子NCAA水泳選手権 - ネバダ大学ラスベガス校	2011年3月24日～2011年3月26日	チーム19位
11. 男子山岳リーグ水泳選手権(Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校	2011年2月23日～2011年2月26日	チーム優勝
12. 男子NCAA水泳選手権 - ネバダ大学ラスベガス校	2010年3月25日～2010年3月27日	チーム21位
13. 男子山岳リーグ水泳選手権(Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校	2010年2月24日～2010年2月27日	チーム優勝
14. 第10回世界短水路水泳選手権	2010年12月15日～2010年12月19日	出場選手を1人輩出
15. 第25回ユニバーシアード選手権水泳競技大会	2009年7月1日～2009年7月12日	出場選手を2人輩出
16. 女子NCAA水泳選手権 - ネバダ大学ラスベガス校	2009年3月19日～2009年3月21日	チーム34位
17. 男子山岳リーグ水泳選手権(Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校	2009年2月25日～2009年2月28日	チーム優勝
18. ヨーロピアン短水路水泳選手権	2009年12月10日～2009年12月13日	出場選手を2人輩出
19. 北京オリンピック	2008年8月9日～2008年8月17日	水泳競技出場選手を3人輩出
20. 米国北京オリンピックトライアル	2008年6月29日～2008年7月6日	出場選手を4人輩出
21. カナダ北京オリンピックトライアル	2008年3月25日～2008年3月30日	出場選手を2人輩出
22. 男子山岳リーグ水泳選手権(Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校	2008年2月20日～2008年2月23日	チーム優勝
23. 第24回ユニバーシアード水泳競技大会	2007年8月11日～2007年8月17日	出場選手を2人輩出
24. スウェーデンナショナル水泳競技大会	2007年7月30日～2007年8月4日	男子100m平泳ぎチャンピオンを輩出
25. パンアメリカン選手権水泳競技大会	2007年7月16日～2007年7月22日	出場選手を2人輩出
26. カナダ春季ナショナル水泳競技大会	2007年3月20日～2007年3月24日	男子100mバタフライチャンピオンを輩出

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>4 その他</b>		
	日	
27. 男子山岳リーグ水泳選手権 (Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校	2007年2月21日~2007年2月24日	チーム優勝
28. パンアメリカン選手権水泳競技大会	2006年8月17日~2006年8月20日	出場選手を1人輩出
29. カナダナショナル水泳競技大会	2006年8月1日~2006年8月6日	男子100mバタフライチャンピオンを1人輩出
30. 男子NCAA水泳選手権 - ネバダ大学ラスベガス校	2006年3月23日~2006年3月25日	チーム28位
31. 男子山岳リーグ水泳選手権 (Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校	2006年2月22日~2006年2月25日	チーム優勝
32. 第23回ユニバーシアード水泳競技大会	2005年8月12日~2005年8月20日	出場選手を2人輩出
33. 男子NCAA水泳選手権 - ネバダ大学ラスベガス校	2005年3月24日~2005年3月26日	チーム24位
34. 男子山岳リーグ水泳選手権 (Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校	2005年2月23日~2005年2月26日	チーム優勝
35. 女子山岳リーグ水泳選手権 (Mountain West Conference) - ネバダ大学ラスベガス校	2005年2月23日~2005年2月26日	チーム優勝
36. アテネオリンピック	2004年8月14日~2004年8月21日	水泳競技出場選手を1人輩出
37. 第7回短水路世界水泳選手権	2004年10月7日~2004年10月11日	出場選手を2人輩出
38. アラバマ州マスターズ水泳大会	2003年8月23日~2003年8月24日	チーム優勝
39. 男子NCAA水泳選手権 - アラバマ大学	2003年3月27日~2003年3月29日	チーム12位
40. 女子NCAA水泳選手権 - アラバマ大学	2003年3月20日~2003年3月22日	チーム18位
41. NCAA All-America (全米 トップ16位入賞者) 表彰 - ネバダ大学ラスベガス校	2003年~2011年	NCAA大会(全米大学選手権大会)に14人選手を輩出し、44回のAll-America(全米トップ16位入賞者) 表彰 を得る
42. ヨーロッパ水泳選手権	2002年7月29日~2002年8月4日	出場選手を3人輩出
43. 世界短水路水泳選手権	2002年4月3日~2002年4月7日	出場選手を2人輩出
44. 男子NCAA水泳選手権 - アラバマ大学	2002年3月28日~2002年3月30日	チーム20位
45. 女子NCAA水泳選手権 - アラバマ大学	2002年3月21日~2002年3月23日	チーム15位
46. アラバマ州マスターズ水泳大会	2002年~2003年	6選手をアラバマ州チャンピオンに導く
47. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	2001年3月29日~2001年3月31日	チーム6位
48. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	2001年3月22日~2001年3月24日	チーム5位
49. 女子PAC-10水泳選手権 - アリゾナ大学	2001年3月1日~2001年3月3日	チーム優勝
50. NCAA All-America (全米 トップ16位入賞者) 表彰 - アラバマ大学	2001年~2003年	7選手をNCAA大会に輩出し16回のAll-America表彰を 得る
51. シドニーオリンピック	2000年7月20日~2000年7月26日	水泳競技出場選手を4人輩出
52. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	2000年3月23日~2000年3月25日	チーム3位
53. 男子NCAA水泳選手権	2000年3月23日	短水路50m自由形でRoland Schoemanが 世界記録更新
54. 女子PAC-10水泳選手権 - アリゾナ大学	2000年3月2日~2000年3月4日	チーム優勝
55. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	2000年3月16日~2000年3月18日	チーム2位
56. 第8回パンパシフィック水泳選手権	1999年8月22日~1999年8月29日	出場選手を2人輩出
57. 第20回ユニバーシアード水泳競技大会	1999年7月4日~1999年7月9日	出場選手を4人輩出
58. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	1999年3月25日~1999年3月27日	チーム5位
59. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	1999年3月18日~1999年3月20日	チーム4位
60. グッドウィルゲーム水泳選手権	1998年7月28日~1998年8月2日	出場選手を2人輩出
61. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	1998年3月26日~1998年3月28日	チーム6位
62. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	1998年3月19日~1998年3月21日	チーム2位
63. 第19回ユニバーシアード水泳競技大会	1997年8月24日~1997年8月30日	出場選手を4人輩出

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>4 その他</b>		
64. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	日 1997年3月27日~1997年3月29日	チーム16位
65. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	日 1997年3月20日~1997年3月22日	チーム4位
66. アトランタオリンピック	日 1996年7月20日~1996年7月26日	水泳競技出場選手を3人輩出
67. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	日 1996年3月28日~1996年3月30日	チーム14位
68. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	日 1996年3月21日~1996年3月23日	チーム6位
69. 第18回ユニバーシアード水泳競技大会	日 1995年8月24日~1995年8月28日	出場選手を4人輩出
70. 第6回パンパシフィック水泳選手権	日 1995年8月10日~1995年8月13日	出場選手を1人輩出
71. 米国大学1部リーグ水泳部での指導かつチームの運営 - ニューメキシコ大学、ネバダ大学、ラスベガス校、アラバマ大学、アリゾナ大学、南カリフォルニア大学	1995年7月1日~2016年6月3日	米国大学で唯一かつ初めての日本人水泳部ヘッドコーチとして日本を含む全世界からの勧誘とオリンピックレベルに至るコーチングを行っている。NCAA一部リーグ大学のヘッドコーチのポジションとして、スポーツ栄養学、コーチング学、組織論、バイオメカニクス、スポーツ心理学を学生アスリートを対象に指導。また生徒指導から学力向上のサポートかつ個々の学業成績を管理、監督する
72. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	日 1995年3月23日~1995年3月25日	チーム8位
73. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	日 1995年3月16日~1995年3月18日	チーム5位
74. 女子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	1995年~2001年	NCAA大会に16人女子選手を輩出し無数のAll—America表彰を獲得
75. 男子NCAA水泳選手権 - アリゾナ大学	1995年~2001年	NCAA大会に15人男子選手を輩出し無数のAll—America表彰を獲得
76. 全米水泳選手権	日 1994年8月10日~1994年8月13日	全米選手権チーム3位
77. 全米春季水泳選手権	日 1994年4月6日~1994年4月9日	全米春季選手権チーム5位

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 大学スポーツの新展開 - 日本版NCAA創設と関西からの挑戦	共	2018年4月10日	晃洋書房	Chapter 5、学生スポーツの指導者 01 学生スポーツの指導者とは (p115 ~ p120) 02 『人材』を育てる指導・コーチングプログラム (p120 ~ p125) 04 現状の学生スポーツの指導者の課題 (p130 ~ p135)
<b>2 学位論文</b>				
<b>3 学術論文</b>				
1. The Pedagogy of swimming classes at university in the United States	共	2018年2月23日	武庫川女子大学 学校教育センター	The purpose of this paper is to report the pedagogy of swimming courses at the Department of Health Exercise and Sports Science, the University of New Mexico in the United States as a case report. p119 ~ p129
2. Balance and Falls Prevention in the Elderly	共	2002年	アラバマ大学大学院、健康学科	バランス能力の低下から転倒に至る関連性は、現代の高齢者にとって深刻かつ最も指摘される問題である。我々がサーチした結果、環境のあり方、身体的なコンディション、薬品摂取による身体的要因、最後にアクティビティとの関連性である。この論文の焦点は、高齢者による習慣的なバランスエクササイズ計画やそのプログラムへの参加を促すための環境だけでなく、転倒を減少させまた予防するためのプログラムを構築する。著者: Kono, Kuniol, Moore, K., Tatum, A.
3. Health Behavior Portfolio	単	2002年	アラバマ大学大学院、健康学科	すべての高齢者が転倒を防ぐための予防措置をとるべきことの認知度を上げることを目的とする。この目標を達成するために、60%のプログラム参加高齢者が、都市圏のコミュニティに在住し、高齢者の転倒の危険性、重症度を認識している参加者のうち、シングルスタンステストによって測定するとこのプログラムを完了した80%の参加者は、下半身の強さとバランスを増加した。その内75%は、食事中的カルシウムとビタミンDの摂取が増加したことを示した。健康信念モデルは、このプログラムのた

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
4. Prevention of Female Athlete Triad (PFAT) Program	単	2002年	アラバマ大学大学院、健康学科	めに適応するための最も適切な理論として考察する。著者: Kono, Kunio この論文では、主に女性アスリートに見られる三主徴であり、大きな三つの要因である摂食障害、無月経、骨粗鬆症についての解決策の糸口を見つけるための新しいプログラムを構築、提案する。一つの目標として、その特徴を分析し、女性アスリートの三主徴をいかに予防し、その数を減少することができるかというPFAT プログラム” Prevention of the Female Athlete Triad(PFAT)” をアラバマ大学で試験的に目標を設置し、実施した。著者: Kono, Kunio
5. Analysis Program for the U.S. National Swim Team Athlete	単	2002年	アラバマ大学大学院、健康学科	この専門的論文は、米国水泳ナショナルチーム所属の選手における栄養摂取状況をきめ細かい実地調査により分析し、それに基づいて書かれたものである。この論文の意図は、米国水泳連盟の食事療法に対する分析を評価しつつこの食事療法プログラムを評価するために二つの視点に注目した。米国水泳ナショナルチーム 選手数が増加傾向にある栄養摂取への取り組み。もう一つは米国水泳ナショナルチーム選手のパフォーマンスの向上。著者: Kono, Kunio
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 全国大学体育連合		2017年11月26日	第3回カレッジ・スポーツ・シンポジウム	総合司会を兼ね、各登壇者へのコメント、質疑。
<b>2. 学会発表</b>				
1. World Aquatic Development Conference		2018年1月11日～14日	1. Japanese Swimming System - How we make successful swimmers 2. Swimming at University Level in Japan 3. Panel 4. My Career from JP to US and back again	1. 日本水泳界のこれまでの歴史の中でポジティブに培って来たもの、また現在の成功を収めるための引き金となった歴史における重要事項を発表 2. 米国大学と日本の大学におけるスポーツ（水泳を中心とした）の取り組みや、米国NCAAと日本水泳連盟・学生連盟との比較を発表 3. CSCAA理事、カナダ水泳連盟ナショナルチームディレクターとの、今後の世界レベルでの課題をパネリストとして討論 4. 自身の経験をもとに、モチベーション向上法、ゴール・目標・夢への軌跡の描き方
2. 大学教育学会		2017年6月10日	大学アドミニストレーターの新しい役割と可能性～日本版NCAA創設に向けた行政の取り組み～	日本版NCAA創設に向けた行政の取り組みと、大学アドミニストレーターの新たな役割と可能性について山梨学院大学、文教大学、武蔵野美術大学、関西大学と武庫川女子大学の代表によるラウンドテーブルによる討論
3. 全国大学体育連合		2017年5月26日	大学スポーツ局長全国協議会	大学体育連合主催による第一回大学スポーツ局長全国協議会において、武庫川女子大学スポーツセンターの事例発表
4. 大学スポーツ振興関西地区検討会		2017年4月23日	大学アスリートに対する武庫川女子大学の主な取り組みと事例	学生アスリートが入学前、在学中、卒業時、そして卒業後に武庫川女子大学がどのようなサポートを行い、また各部署や学部との連携を事例に発表。
5. 大学スポーツ振興関西地区検討会		2017年11月26日	武庫川女子大学スポーツセンターにおける、学業支援、学生支援の事例報告	庫川女子大学スポーツセンターの現学生アスリートの学業支援プログラムと、これからの日本版NCAAを視野に入れた学生・学業支援計画を報告した。
<b>3. 総説</b>				
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. スイミングマガジン、アメリカントーク	単	1998年9月1日	ベースボールマガジン社	全米大学の水泳シーズンについて 3 月末の NCAA に向けたシーズン と、8 月の全米選手権に向けたクラブチームのシーズンを解説。アトラクタ五輪銅メダリストで、テネシー 大学から HOT に移籍したのジェレミー？リン選手にインタビューした。著者: 幸野邦男 p. 74-75
2. スイミングマガジン、アメリカントーク	単	1998年8月1日	ベースボールマガジン社	1999 年度に開催される国際大会や 2000 年のオリンピックに大きく期待される新生と言わる 2 選手、モハメッド選手とシューマン選手にフォーカスし、インタビューを実施。彼らのこれらの大会でのタイトルを得るための必要な要素を聞き出した。著者: 幸野邦男 p. 72-73
3. スイミングマガジン、アメリカントーク	単	1998年7月1日	ベースボールマガジン社	アメリカの水泳ファンにとって毎年 3 月末に行われる NCAA は見逃せないもの。選手、コーチ、学校、家族が一丸となって競うこの祭典の大会ハイラ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
4. スイミングマガジン、アメリカン トーク	単	1998年6月1日	ベースボールマガジン社	イトをアリゾナ大学のパフォーマンスにフォーカスし つつ執筆。著者：幸野邦男 p. 70-71 米国大学生の学業とスポーツの両 立の現実について、彼らのそのバ ランスの保ち方、また学業を優先させ かつ世界で選手として戦うための 経験と試練に迫った。そして学業だ けでなく、プロフェッショナルとして職業と水泳の両立をこなすモー ラー選手にインタビューした。著 者：幸野邦男 p. 72-73
5. スイミングマガジン、アメリカン トーク	単	1998年5月1日	ベースボールマガジン社	可能性と努力について 2 人の世界 のトップスイマー、ゲイリーホールジュニアとエイミーバンダイケンのインタビューを交えながら水泳 を国際的視点で執筆。著者：幸野邦男 p. 84-85
6. スイミングマガジン、アメリカン トーク	単	1998年12月1日	ベースボールマガジン社	世界の第一線にいる競技者たちを 筆者のアリゾナ大学でのコーチングの経験を元に執筆。彼女？彼らが 思い、願い、それを基に走り続ける 純粋な競技者の姿勢を筆者の言葉 で表した。著者：幸野邦男 p. 74-75
7. スイミングマガジン、アメリカン トーク	単	1998年11月1日	ベースボールマガジン社	全米水泳に絶対的な信頼を得るア リゾナ大学ヘッドコーチのフラン ク？プッシュ。彼のコーチングに密着し、インタビューを得て米国ナショナルチームのコーチングを細か く描いた。彼の元から数多くのオリ ンピック選手が育ち、またメダリス トが育った。米国コーチングの真の 髓を描く。著者：幸野邦男 p. 70-71
8. スイミングマガジン、アメリカン ドリーム	単	1997年5月1日	ベースボールマガジン社	3 年目の経験となった米国大学運動 連盟(NCA A)一部リーグでのコー チングを執筆。アリゾナ大学に所属 するベッパー兄弟のナショナルタ イトルを得た業績とその彼らの強 さの秘密を取材した。著者：幸野邦男 p. 92-94
9. スイミングマガジン、アメリカン ドリーム	単	1997年4月1日	ベースボールマガジン社	筆者の渡米を実現させた一つのき っかけから 1994年に入学したアリ ゾナ大学、ワイルドキャッツ、での コーチングを通しての学びと選手、 チャドカービン、との出会いについて著者の経験を元に執筆した。著 者：幸野邦男 p. 73-75
10. スイミングマガジン、アメリカン トーク	単	1997年12月1日	ベースボールマガジン社	アリゾナ大学アシスタントコーチ として典型的なアメリカ人選手の 自分主義について、ユーガーターナー選手の挑戦、経歴、そして彼の水 泳に対する思いを執筆。著者：幸野邦男 p. 70-72
11. スイミングマガジン、アメリカン ドリーム	共	1997年1月1日	ベースボールマガジン社	今までに数多くの水泳コーチや選 手が米国を訪れ、その誰もが米国の 魅力にはまった。今井茂もその一人 である。米国人だけでなく日本人の 彼が求めたアメリカンドリーム、今 井茂の経験を描いた。共編著：今井 茂、幸野邦男 p. 50-52
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 大学における学生アスリート対象の学修支援プログラムの開発	共	2018年4月1日現在	科学研究費補助金・基盤研究 (C)	研究代表者：長倉 富貴 (山梨学院大学) 研究分担者：幸野邦男 (武庫川女子大学)・東原文郎 (桜美林大学)・石川勝彦 (山梨学院大学) 連携研究者：小林勝法 (文教大学) 助成金額：4 9 9 万 8 千円

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2018年4月1日～現在	大学コンソーシアムKANSAI理事
2. 2017年4月25日～現在	大学教育学会会員
3. 2016年12月8日～現在	日本スポーツマネジメント学会会員
4. 2016年11月16日～現在	全国大学体育連合会員
5. 2016年11月1日～現在	大学スポーツ振興関西地区検討会幹事校委員
6. 1995年～現在	American Swimming Coaches Association (ASCA) 会員